KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

ル 2
1368
2

呂
門
弟 1368
卷 2

環海異聞卷之一

文化元年四子九月廿四日三國使節大船長
崎入津仙臺ヲ始の漂客四人連帰同年
七月廿八日四人ヲ著徒公義指引被申
木藤武弥流罪其外被大夫被申渡
仙臺ヲ出長崎ヲ通り帰国ス
清藤ヲ用ル事ハ文化元年十二月

宮城縣立圖書館

環海異聞卷之一

文化元年甲子九月魯西亞國使節大船長崎入津仙臺より漂客四人連渡り同二年乙丑閏八月四人ら者從公義法引渡事本藩に於仙波平井林太夫法武記窪田栄助法後月付等長崎に於遣同所法奉行ゟ請取ら同十二月江戸に於紀聞ら申

大槻茂質志村弘強ヨリ命セラレシヲ依テ同
月廿四日晝後ヨリ問ヲ起シ翌丙寅正二月
之 愛宕下出本屋敷ニ於テ 漂客ニ承ル問書
明出屋敷ニ於テ

宮城郡寒風澤濱長九郎悴
水主 津太夫 丑六十七才

桃生郡深谷宮濱深三郎悴
同 儀兵衛 丑五拾四才

宮城郡寒風沢濱長九郎悴
同 左平 丑五拾三才

桃生郡深谷宮濱
太十郎 丑三十五才
業儀ニ出帆ス不幸ニ

拙者共魯西亜國所領ニ渡ル漂客仕候ヲ地方
江送屋魯西亜本国仕ニ船ニて去年子ノ
九月出帆ニ居申候 丑三月十日魯西亜人ヨリ
御奉行所江出文取出役所江出候ニ付
文紀ニ上 踏絵等ニ付 仰付出濟ニ成江戸出

反數に到る先年法度許出和に東漂流し
次第並今度阿部仕始終委出し義に付
如件 九月十六

一拙者儀十三年以前寛政五年癸丑十一月廿七日
牡鹿郡石巻沖和船軍に漕方雇使用水雑小
百木に百本並法米弐千三百三拾弐俵 十月十日積入
江戸表に未迄に積り同所米澤屋番に延和八百
石積若宮丸弐拾反 内反帆に積文

牡鹿郡石巻沖船頭 平三郎
宮城郡宮城沢浜 船頭 左吉丈
同和 水主 紀三郎
同所 同 民三郎
同郡石濱 同 辰義
牡鹿郡石巻 同 清義
同 同 八三郎
同 同 善六

同　　水主　市兵衛
同　　同　　義治平
同　　同　　吉兵衛
同船石巻　　炊　　己之助

右拾弐人に拙者共四人都合拾六人京組捨
綱五房（苘麻）縄三房莫縄計房積込申候
由役人様方ゟ出送状等受取申候
東左ゟ通ゟ出帆仕候

一十一月廿七日石巻湊出帆風一向無吉存ゟ
東名浦（トウナ）に波沙繋ゟ
一同廿九日登り風ゟ出帆同所出船九十里
程沖岩城領塩屋崎之走り申酉（南西）ゟ風吹
出し度々難渋に波打込ゟ艫を打破ら
義浪ゟ出帆中ゟ
一同晦日西風ゟ吹替り岩城領磯の前ゟ帆掛
仕ゟ

一十二月朔日 連陰 夢揖振ハ有ハ方法西之方ニ船ハ
向ヒ走り仕ハ八ツ半時ニ成ル地方一向不知ハ
一同二日晴七ツ時より北風ハ吹強ク又ハ登り仕ハ
変又申酉風ハ変り浪高ク成 舵ヲ吹キ折ル
船尾ハ破ル 宗徒ハ 髻ヲ 掛ハ 佛神ハ
祈願ヲ 如何 命ハ 有ハ 備ハ 地方ハ 一向不
知人 時ニ 揖屋浦ニ 泊ル 見ハ
一同三日風強ク吹 帆柱ヲ 伐捨ハ

時ニ揖屋浦ハ ハ 見ハ 井ニ 船ヲ 置ハ
一同四日風ハ同様ニ 強ク 方ニ 進ム
出来ル ハ 船 捨 船 漂居ハ 地方ニ 山
一向 人 ハ 不 ハ 以 後ハ 大抵 申酉戌
南西 北 風 出雲ハ地方の方より吹来風合 毎日吹ハ 内 弦 井 申酉ニ
風 ハ 東ニ 方ニ 走 漕 ハ 覚 ハ 数 漂居ハ
一翌寅 寛政六年 正月六日七日ハ 又ハ 大浪ハ 揺立ハ
万 船 出 方 出 船 捨 巻 方 ハ 綱 二 房

引も淦水を繰り出すのみにて方角も不無流
次第に敷強生ず

一同月十一日申酉大風吹艫を打破る巳の口ハ
皆以ての外大破し同日上ハ船も裂け太縄を以て引メ
船ぢを巻け帆を解き巻肌に取込取舵の方
艫座片艫も潰れ波に流れ出る糸縄に巻不残表の
才ふ居る船中水も尽き一向失ひ
て此度ハ飲水ふ而隠節溜め置き用ひ

源吾の節を飲水者ハ皆ハ一日に汐垢を垢離
ひとを面をいのり出ハ多少ハ格別面のふ
さめるのハ無き産ひ

一同十二日十三日風ハ前の通り船々大の如く大破
仕り裂け割れ出るとふ赤水中ゆ牙五合の
綱等を以て繋つけ船底ハ次第ふ淦水
溜り出ず皆と是を汲捨ゆれとふ赤焉居ず
て流し次第ふ仕り板底夜引切りも無き産ひ

行のもの舟の外廻りに付き遠く出し来り候付以後

一同十四日風なきの通りにて水くい和きいの方ふ
あめ出し後数の外百同振に成

一二月五日申酉大風にて船表の方も打破り取舵
の方表垣迄流れ取り料理計百俵程残し
置候分別捨以後も風を前の通りにて
流れ居り

一三月朔日申酉の大風下タ綱計房碇計四五尺
板流れ出し候ハ次第ふ風和きいの
一同二日蠣殻(カキガラ)付き九本きの中 長サ計丈径九寸三尺径
も出来
紅のきへ流れ来りし者地くに付き力落
里数を知ふ仕り神園を上りふ地くに千五百里と
神園下り

漂流中神園を上りの儀度といふ数歳ふ
地くに動よ五百里より流れて何ふ度千

九百里とヤスより北へ下り下りそれより
追て全く海の七百里とヤ之下りなり

一同六日天氣能く百石船柄（カヂツカ）を帆揚ふし中の
車（シヤダツ）立ふ結び付帆を卷し綱を引て風ふ任（ヨセ）
立て数日の間漂ひ居なり

一同廿日辰巳南東の時変して多く北西
戌南西北風にて漂ひなり

一同四月朔日三月廿日以後の風合と大抵
同し飲水ハやはり面の雨天水をとり溜め置渇
を凌ぎなり

一漂流以来昼夜を打て時雨降中にて日和の
無なし五月ふ入ては打て雪降なり
一船を通和の若字なる舟なり沖に出
ゆきて「オンブ」と申大なる足無て口無能
人ふ駄を中物に載く漂流の方足蓋し
オンブを形なるて大きく常ふ人ゆきて

四倍もあるらん鱠のめふ振るたくましく
ちかき対泊通ふい船の通用なき不思議の
見聞まぬ物水面ふ浮ひてゆらゆらと
泊まる船の上を徒り羽を動す
るせらしらしたゞズらゝとやきて死ひ
興ありい渡る人ふい聞きやさんを水
深ひ所やさい　按ニオンブハ漢名信夫縁（アホウドリ）一名信天翁ノ一種ナルヘシ（バカツテウ）
一海上地方ふ近き通ふい水色赤きあり
泊ふ出ふ水者ふあって岸ふ足あれぬ
色なを魚類も又多ふい悪て魚地
うゝ近き不ふ来ふい来ふやさい
一五月九日晩方辰巳東南大風面て吉ふい
六日泊ふて何ふて地ふ寄ふ上ふ又ふ
神園を上ふ地方武百里と神宮下ふ
日ふ神園を上ふ変近ふ地方近ふ来同八日
ふ五十里ふ神宮下ふい

一同十日朝も（暁霜）やはり閉家船にて出る向ふ船の
ぬきものの入りけい能く見留めは為て小清水
ゆ所に行き地方へも来たくいあるまじき所と時佳
井新宿に出る藻氣（モヤ）晴るして目の前ふあるる不
意ふ丑寅の方ふ雪積りい高山を近く見付申
はるを海上源流の中に蝦夷松前の方へ流れい
るとだうて存居ふ所ふ附あるぬ雪積りい山を不見
ゆへこれい日本ゆ地をはなれい異國なる所と始て

存しに付ふ二里ばかりも傾（ケハシ）ク絶壁あるい仙蓋
鶴井新の駒ヶ嶽程の山ちと見受申い家程の者
ふて行きも悦いるゆ俄ふ家内かるく出る山の
卯辰南東乃方岩根へ船流れ来る波ふ源て
雪ふるく一帯切り岸ふて巖石（ガンセキ）きりして甚嶮（ケハシ）き
出清の不そ井く登り一帯ふ無山ふ有る方ふ
船を岸の方ゆ岩穴ゆ碇を下し縄三房下ゆ出ふ
高く揺動端船をおろし やりく粮米三俵

[illegible]の石積み移し船神(フナダマ)と持ち拾い人共
小屋七ツ時分小濱出る不に上陸仕る夫日本の
地とハ思ハぬ一神仏地にて近国第一とて
もなく濱色と雪ハ[illegible]ハ実に[illegible]やと存ル
ハ人家もなく皆茅葺高の不ッて宮和
礎を置き柱の色とハ下ハ[illegible]ハ変ハ[illegible]
波ハ打揚られ流し沈[illegible]不[illegible]ハて二三人の
小板[illegible]ハ[illegible]山不ッよ 十日斗逗留[illegible]

[illegible]人家と[illegible]又出[illegible]ハ又神
[illegible]と上ッて嶋ハ国[illegible]人里の[illegible]角行
の方と三度[illegible] 験(ウヤヒ)[illegible]ハ人ハ行[illegible]戌(西北)
の方五十里又五十五里と神[illegible]ハ又端船を
[illegible]て神[illegible]
地方ハ沿ひ奥ハ方へ二百程の湾(ハシ)をめぐ
乾(イヌイ)の方を尋ねハ
一六月十日晴[illegible]人家と[illegible]

月番の長崎奉行、私を近寄せ為る人、新三人、私共を
城中に皆殺し致す事、上陸仕度存ぜず、ただ城を揚り
城下を荷と見物致、所々の角向ふ生先の不乱生じ
万々を以て私と異し、乗乙山と生先きと異沙漠
あり不可考、三人、当人たち宮初拙者を乙無
と拙乙私と異しの方に乗乙山沙漠に滑
安し、初め乙けい三人の私合三十人程の人
数を以て乗乙山の頭、残切して疑を出くのだし

面白い事、異能して衣服者の羽又獣の皮
を以て作り物と云用いる、見別なあり乗乙山
人間と見る事は向り何り詞をうけ手招きいる
一国面一不可何も甚変くなり春の角繋る事
あるれ手と乙山頭つ手招き殺しの方い
事私かり私気味あり春上陸殺しいて見る
辛苦いし立腹お渡し命も見届と庭ぶと中山変
宗俎の角年寄山乗乙中山い出ても山本私を逃け

延ゆるもいかで百姓共見人まもいて何とのたまふと
下知を蒙しかば命を先ひ先一と先ッ上陸のうへと
中山方皆〻一決仕揚り下と存居彼者ども
初めより拙者を漂流の者とうかつきひとおもへ
先ッ〻形を引上ケ居の仕形いたし彼者共打寄り
暫時ふ引上ケられ
形を引ケ何も僕〻上ケ居る品人共の所の
事ふて男共魚を拾ふ未だ桶或ッ皮袋ふ水を入れ
拾集り形ふ成ふ品を湯ひきし時ふ時ふ者て
居る居ふ仕形いたし上蓋のやき拾草を焼
糸ふれを焼き用ひ中〻きと火をうきかくれ玉此
沙漠ふ歩ふ事を為ふ〻皆〻隠せり居ふと自
分ふ寝ふて居仕形いたし乙せ中ふ拙者共ッ家和
より怖ふ為ふ彼者ッ〻ふ逃ふ拙者共
数ふ漂流して殊ふ羅漢苦して糸ふ者と
合熟絞ふ拙ふ〻ふ為何彼ふ氣ふ〻ふ

と称申し祈られ申すべく拾申し系伝のしも五極彼に
て不覚生ずふるもなく閉せり申し数ヶ月のた
られたるを羽三日より生落も鴉人右れたるく
魚類並ふ樸物拾系典へ有塩新ふ入し其に
鍋を以て烹合米をもしかつて炊き炊し鴉人
此伝報の不ふ伝居仕り系や新ふ人赤とても赤乙鴉
申さず有彼考先仕報して義へ通て拾軍に典へ
申し拾草と為キ伝まも正系ふ閉せり申し追て赤考

第丑十一月より寅の六月を海上漂流の万八首
ふ〜て初めて上陸仕
一男女の衣服見聞仕る変事の羽にて作り
ものなり生度を羽毛のまゝむき綴り合
て長物ふいるし毛扎方を用ふ〜て長張す
女の被い生法き合せめふ太多の鬚を元
あつめて生鼻孔へ糸をとゝし衣被の飾
ふくり生て下ゝ申し此多の鬚先キ鈎曲

て色黄赤なるトの方黄だと見事なる物ふ
ぶ進と称する者の名を「オクチヨ」と
いふよしふぶ
はる東奥蝦夷地「ウルップ」猛虎 偽ふあるふの「エト
ビルカ」といふものふ似る絹手ふれと見るるものあり
又生き魚人用ゆる不ふふして此皆を連絡せるもの
と不義せる人あり偽て是を漂ふ示すにふれ見彼
オクチヨ多の皆なりといふ生彼飾となす不今く
彼と同じはる北海の裏地ふ表する物と見へる蝦
夷言「エト」を表なり「ビルカ」を鳥なり「ビルカ」を鳥なり「オキリ」ふ図
チヨとい何の事ふるるを考へたの新人知る獣笠
物等ふふ図す
漂ふ物徳ふ不め説話考きふを面しふ記ふ

○キハリノ浜

あふ筆賀ふ門人の中画ふ分ある者を生筆ふ絵ひ
紙きて漂ふ等説くふふより新ふ図と作りしあ
通福生絵件の乃ふ作して
詳細と知せしめるのなり

一又是彼ふ用ふ海獣皮ッコージキ」と中物を
海槽 海槽 行しられ等きの也毛色黄し形状
大小行と 図下ふ見
他ふ物のふを先年彼地ふ漂流し伺朝せし行等
函先を丈といふ先ふ徳ふ「コージキ」を「コギ」チイカ」
なる「コーチイカ」を「方ふあふ不の海獣 海鱸 名
ありといふ先を丈ッ物ふ漂島
いふ魚ふ漂島
せふ男なり
連 アミシヤーツカ」と

一衣服の仕立ち男女共に筒袖にして無襟
縫結び唯頸首を容易に取ることあけとき
前後をぐるりと縫合せ唐あき袋のごとし
裾の方にて襞ふ深く仕立ちたるものなり裾
裾より加ぶり上の孔より仕立ちを出し袖
を通し後を合せ分ふ縫ひ合せたる仕
立方婦人共に乳を吸ひ易き裾の
方より懐へ入れ乳を合せ腹の通りにて
細帯を巻あやまい極意の土地ゆへ衣類の仕
立方なれとも又好ましい
一男女共跣にて歩行し男は右のごとく
面色も黒く但婦女は顔色も白く自
然と乗和なるか大抵我國の婦人の
如し偏異相なるは口の周りに入墨いたし
又鼻の情子背の前部穴を穿つて牛
鼻はめくし穴に棒ふ中棒を通し小

鼻を張りやうふし抜き横ゑくい木枝ふ魚骨
みて細工しあるる連環を下ら上唇の上係を
いくりやい又硝子のわき玉をもさげい是ゞ
オロシイア和名通用蓬のるを吏ふるい
繋ゞ毛くもしを文をもちい婦人の髪れ結
拾い後ろの方ゑて硝子まけの拾ふゆひるい娘
のふゝ三ツ組ふケさげいて置るい又耳ゞ耳
輪はぐるくゑ書き数孔をあけるいて右ふるい

鼻より下ら後ろ抜を下ケるい去れゞ成を
後ゝのちゝ・ふしみて幼少より鼻柱ゑ耳
輪ゑ穴ケけいよし

一付箋の名をオンゲシイツケヲストロとるいこれも
オロシイアより名付名ゝ原名ゞ何とるい
オロシイア辞書ゑて後のるを オストロとるい硝人
の無名をアリヲウトロとるい

伊勢光孝信ふ アミシヤーツカの北ふ「アンゲ

レイスカ」と云変り盃のすゝオストロピ」といふ
猶人の想ふと アレヲー族」といふそこれ同し
名あるべし信濃しゝ四名なるや
一説人いろやうの不住居や家作とそい乙へ
中古尤最興り乙ゆゑ何れも穴居と乙一所に
土窟の近き所に造りこれ掘子を乙
いふ乙事地へ掘く穴を掘り蔭室のやくいたし
いろ和なり穴の上へ拾ひ集め置い流し其上を
以て屋根の貴とあり大蓋のやき草を葺キ
その上に土を盛り置い先生弁ふ或尺四
五寸四方ゆ口を一所に置いこれ屋上の烟窓ホ
例り此口別ち出入の不とす其口ゆ口
升降出入れ梯やこの物出来これ革らめ
なるゝ其ゆきり大くと仕ゆこの物ふ四角く窟の
内ゞ人数の多少ゆより廣狭四角く掘子ニ人
以ホ樹木繁て生ゝ尤樹木ふ殺い物

なく且風雪も厳敷ふ振ふ事能はず
穴を掘り住居ふ様なるものと見受る拙者宅
初い気味あしく存ぜられ入申さる已に申し
剛さ(セツイニ)ふなく谷間岩石の陰あるを二
度たふ使し中し女よく公無と已に
使用の振ふなと已らけ申義なく
一同八月私氏平蔵私中より水腫の病お発し
既に指重り申ふて病死仕り私方も難儀
渉地を深く掘り夜居をきせ申さて暖あり
一同十二月当人と無代振ふ事に五十餘と已る老皮
新ふ毛の皮の衣服を(裾下より出ふ足(ひき)毛の長き)
し私の揖樓(カイロウ)と言ふ枝ふつ死上陸に是ヨロシイアと
名人五人ふ鉄砲とも
とも為持部合十人なり手に鉄(マキリ)
と已ら拙者宅漂民の内はなより オロシイア
段ふ出来ふ不日注進いたし申候味のあ手

進上書案中に

一魯西亜人〻は鴉人と〻眼形面色一躰の容顔抜群に長身丈高く

一皮船並皮の長靴は鴉人の用ひ来る

は露西亜に来る魯西亜人〻は常服

の形ち犬の皮麻の皮の衣服も作る用ひ

来る地抜群厳寒なれとも

右魯西亜人陸に上り船を向ひ行き振舞

船長を示す一向通ず不申候オロシヤ

人あるりを見能り船長たの船に乗り水学式

を以て船の中に来て行ふ又二本三本

行ふと申し船長たる者又〻乗組三本立と長く張る帆柱の

仕形と合点仕り一本帆柱にて宗教張る仕

形仕候と船長 領きて振て「ウ」エッホ」と申し

されは日本なりと申し候とも方よりも

ニッポンと申し候て日本人と申候おろしあ
ゑとゝ申候

一進と乙巳仕候帆柱無之乗組二人
三本以上立て候の樯（ホバシラ）は日本形作候
おろしあ船は彼国人日本新造一本の帆
柱にて無之候て帆仕形新造
候て日本人と申候おろしあ
日本人と中船子おろしあ人指図して泡卵（ユデタマゴ）
四ツ五ツづゝ出候て為給候（モラナ）獲（アタ）しい
おろしあ乙巳は

一此卵はカクチヨ島の卵にて家島（アヒル）の
卵より大きく此島に鶏くゝ丈
有間も卵も食料ふしゝ羽つきに皮い
綴り金色衣彼方作候と為申
図下ニ
不事

同十三日新右衛門方南風吹方魯西亜人鼓指図

拙者共乗り組む脇船（ワキフネ）を始め人夫あつさせ申候て去
る六月仕舞候て帰帆仕候ハ一同ハ京迄出船
仕候間夜四時頃同国の内丑寅（北東）の方あたり
山陰に碇泊仕
一ハ所ナアツ（ナポリ）と申ハ中やたり オレデレイ
ソケの内にて魯西亜本国より出張ハ
五し山陰と申ハ出船の場所にて彼
国の里法にて五十里程にて京和庫兵の
ハ所を百里程と少ハ
ハ変ハ三四百石積位の魯西亜船に三拾人
乗組乗り陸地ハ三四十人乗り居ハ
中ハ魯西亜ハ国が彼人出張いたし居候
三年ハ交代ハ出張ハ時ハ兵庫港ハ
飯盛と唱（ス）老者と唱へ振舞ハ
ハ酒食ハ船を色々世話致ハ拙者共暫
間ハ滞留仕ハ内ハ海辺に流れ寄

来を拾ひあげい手傳ふ仕ぬ者ども之を勇て強く働き
ものを事あるを者のみは故障い

はんの丹（五月十日）神戸上陸仕ル者人里
無し博多又無を出し六月五日ハ
御ゝ船人ハ生達ハ交ハ不逗留九日
めて はナアツカ」に乗ハ陸上ハ男三十日
程ハ来ハ此不見とをとめゆるが来ル九ケ月
程同ハ形長

一此金曽西亜ハ領地ハ之よりハ東の方ハ行ハ
北アメリカ」ハ属し中ハ
一鴻の廣サ行程ハ丹ハ考れ不ハ はを前ハ
大ハ諸船あるを来ハ居ハ海ハ居ハ「ナア
ツカ」ハ はヤケ山湊と来ハ
一鴻の内樹木文ハ多ハ之れ有ハ前ハ豆の
等ハ之を用ひハ也 為ハ物ハ用ハ はヤ山
ハヤ山豆より ハ乗カ為ル物ハ

一子い防風（石防風）はは黒い日中の頃ふ出る

一本文字い法螺い海獣の胞嚢（エフクロ）のごとし水

並ふ池の数も入（いれ）しやい

一食物い主ら魚類と為（なし）やい魚類次出 汐水にて

煮揚け箕（スノコ）の上ふのせ置ちを以て乾き食

ひやい生（ナマ）にても為（なし）やい塩漬にして生魚

の骨い居不申 即不申 指薬法度有ふ仕

去 塩（ケウラ）後 油 煮 去 地ふ生しゝりの出て来

和ふなくい魚漁網仕い魚類ふ用ゆるとゝ為（なし）やい

一鱈年中出来 形い寸才の品と同し 指て但

寸才の才 細（ホソ）不申 ちとくい出来 名をテレツカ

ちやい年中の食物おゆふ 寸ふと用ゆ 出来

一本を三つふきり 彼蓋（カヤ）の蓋ふ色ふ 汐水

ふ煮ふと如く 煮 けげ生ふ色ふと 出来 むきりて 為

ちやい又 汐ふ入て煮上ケ 後 肉と 指 て かなぐ

下タ地の如くふし 鯨の池又い「コージキ」あぐし（海豹）

ネルバの油の肉と金用ゆ油あぶらして
きれいで味も冥く甘く「コージキ」（本草、こしと乙ゆ 和沈）

一鮭（ケッタ）鱒（ゴロボーシャ）　北月魚（バラトス ルレイ）も甘く
俗は新い時ふり所れゆ青魚（カド）胃
始ふれて赤用ゆ鯨（ケトウ）を子ふ獵
不仕自死の物流し去るの肉ゆを入て
殺へゆ

一鵜。鳥いさしい鳥形大きく嘴彦人を呼
ゆ〳〵アフ〳〵ゆ振ふ吹〳〵ゆ

一貒（マミ）のゆき獸嘴彦並尾も狐ふ似ゆ毛ゆ赤
ふ見る山ふ棲（スミ）ゆと乙ゆ人ふを
レセツ〳〵ゆ

光支曰狐とオロシイアゆ「リシツ」といふと
ふれ亦やゝ狐ゆ〳〵ゆ

一海獸と突留い猟（モリ）の柄ゆ長ふ長も甘く七寸五六
尺鋒（ホサキ）夫ハ大ゆ石の長ゆ振ゆ石を実（トガ）らし

はげやいこれを投突ふ（ナゲツキ）彼ひて海獸とそりやい
其こをふ入りるこをの又ゑるこも此屋こ
ゆて突キ殺しやい 図下こ入る
一は這ふを彼ふる獣人ゑてを練鉄若い鉄い
知少より為習ひるの者と者ゑ切子共も常こ
使こて習居やい先年オロシイア人は出こ
従へしたしめ獣人ち勢海側（ウミハタ）へ来ふる
玉船ふ向ひ此こ夕数千年と西の獣ろ者く

かけ事井こ来ふ井ふ者ち大ふ殺義
迷惑し怪（ケガ）獣人も夥敷お年を蒙りやい
彼ふ此毒石毒所ゑて肉中に入ふ毒ふ
腐ふ此ゑ史腐腐敗ふふ肉とそぎ中ふ
此年法人ふ オロシア人の内老人を人ふ
先年を船ふ来ふ食を怪我いこせし痕（アト）あり
とて膏と出しふ人を不肉偏こ居やい
桜ふ此ゑ石弟東 軀夫地を箭（ヤノネ）鏃ふ用ゆアジと呼
ものふ似ゆアジハ堅田屋の義あり

一造船のオロシヤ人まつは筏とあぎやあるいは長
中ふくはえ井とふ入りあるいはオロシイアが持
渡り来る鉄砲ハ当人市ゐ能芝（はやし）
一魚の皮にて造りたる船図ハ和国ふ来る獺ふ
出いたる和の古例ふ此稼（モリ）を結ひ来りたる
一漁猟ふ網（アミ）も用ひたる是ハオロシイア人通
用学ぶのものなし
一此島猟の外ハ専ら捕ひて以前六月ふ出る
谷川の内中程ハ氷り解け流れとなる岸ハ
氷りつめ居たり
一海の内土石沙利等日和ふ行ひ難き事
一女ハ専て織物さし物ハ新しき工事
彩り多像ハ針ハオロシイアより渡りたる
也猟の手伝ともいたす
一男ハ専ら漁猟仕
一男女共ふ髪ハ男ハ髪ハ頂上ハて前

後へかきはけ後の方へ襟(ヱリ)付て蕃(バン)と云
肩の上にかけてきり掛へし
一麻布にて掛ル長と長し居る者も有
ときは長もオロシイアにて掛るのもし
一長掛の襟(ヱリ)の廻へ毛コージキの毛皮を付
けるもあり

オンデレイツケ島
穴居并島人其土
室ヘ出入之図

コージキ圖

コージキ」ハ「コーチイカ」
あるへし「コーチイカ」ハ
はるか近海ニ多く獵
するものゝ我海の
海獺なりと先生更
いへり故ニ印ニ出
圖をこゝに摸せり

一ナアツカ　土間の骨西亜人の居所い平地の上ふ材
木を横置ふ圍ニ上ふ柱ニふを並へて土を厚て屋ふ
入口ハ横ふあ〻出ふハ少し土を隔め高戸ハ板の
ひらき戸なり屋上の出ハ中を四角ふ開きセイウチ皮
皮をたゝき透き通てひろう而ハ出ふ而ハ出を通く
入口博風(ハフ)のまき布と向ふの横面ふハ硝子障子を付え
めをくなり　硝子板ハ布ふ
ようなり　窓中ハ長屋のまく仕切あり
片板まくて編ふも並へ通用ハ出中ふて面と

の寝所ハ各仕切りあり此土家ニテ布ふ四十人程
住居ふて圍ふ内外百仕ふ亞人を用ひ又
亞人の穴居ハ此圍のまくこと殊ニ異なり
一亞人の横ふ用ハ皮ハ上より見ふ形チ船
の甲れまくて中ふ穴を一ツ中ふ居て出れ出
人の手ハ口なり人手ハ出ふ一ツ三人手
きこふふあ中ハ行れも人の入ハ船ニふ乗く
一神ハ人や船の出ふて細し三人手ハ出

三方程四角い人生穴の内へ入れて生て後か
上方外ふあるそし後れ不申生廻り申
くるまい船い皮にて作つあい物こ生穴の口
きたしくを袋のうへ紐と通し置き
人生穴の内ふ雪り生紐と引すべ後の圍を
引きしめくりつけ置これ船蒸汽の舟へ
入申て舟へ入申ず方器物新和書
拵致ものとあれ共櫂

生穴のあれ申て生生穴舟を持ち方方へつらひて
漕き申

此船舟拵所しられ反物すると金人の糸
とえ又ふ漕方へ船を横つけふいるし置き彼穴
の内へ生ッ三生を入金と又次ふ二百れ目と入れ
なり丈より高ふ拵物ありて居るへき櫂
を使ひあるへ舟へ生て上陸の時も櫂を杖ひし
後のきり拵ふ如へ上へ生行んだい

紙撓練（えんれん）と云へる何の造作（ゾウサ）もなきこと実に笑ふべきあるべき事なり

一横ふ生るべきの日を見る金出る所の物のかり

もうけなべやきたる漁る魚獣たふ物の百よりも

私の肉へ入るとやはり洗ふ浪荒くあるとも

側のめく物のうかり引くるやう

一私い自然とよきを好ふ曲とは出を見る様ひ置き生

ち抜を抜へ元上へ皮を洗ひしもの生ひ皮を

セイウチ」と申海獣の皮にて家は囲ひ屋根ふかる事

一生皮い剥ぎ乾かし生皮にて幾枚も重ねる

小口と小口とをつき合合縫ふし糸めと紙へ

出さんとなして幅廣の物ふ仕立て用ひ申

糸鯨の筋にて出来ル　按ふに鯨筋ハ日本にて綿おちの弦ふ事の天生（テンセイ）かと

いよ物に用ひこれ有し先ッ針にて穴をあけ置き次に糸

を通しこれ出来へい永の毛はこれ出来

ちくちくと通しやはり物を打ちて引きて

縫合せしもの又は縫目不知様に綴し
たるを玉て手際あるものに巧く（氷の毛とりかくしたい糸ぐ形つき）
ナルほど
巧はナル

一鯨の筋ハ自死の鯨漁とよりたる時とりて
貯置き セイウチ牙を筋の如く作り
たる物を糸ふとりとる 糸繊平打糸す
下ふ國にて
一大皮ハ縫合の不水少も不透様にいたし
縫合せて後生縫目ふ ほとつを吹きて試

息の洩るを知ふ 佐渡ふ尾これを船下地の木張
こうに縫付ナル 其ふて造りに和てい ふ音響
は皮舟なり 色人作りかいて用ル者を
バイタラ」とナル
一セイウチ」を海獸 牛馬より頗大かして
毛淡紅顔ハ馬ナル 短し 上鬚 両側ふ白く生
丈長牙二根上顎より生へ垂て下り象
牙ハ如く 上齒 左右 一根 生り形圓

く種り本の方ふて或寸ゟ五六寸程長きもの
或尺位より三尺位迄 此牙形ハ象牙ニ似タリ
色と細工物ふ使ひよい候手付牙の小切とを根牙ふしるし
拵ふ使ひ付度の使節献上の事とあるの付牙長き
牙尺位より牙尺寸位迄の物乃あ中ゟ程拵度中ゟ
無て出ス下げなぎ有ゟ拵度ゟ拵ゟ
四脚あるて蹼あるの海獺(アシカ)の類ふ似タリ皮
ゟ牛皮ゟ小少し厚し毛い長ク中ゟ
ゟ正外の事ふ用ひ
付獸拵ゟ使ふ付ゟ獸拵度ゟ

自然ふ紙(アル)きゟ拵ふ長ゟ棒又ハ鉞(マサカリ)ゟ
拵ふ彩ゟ下ゟ 図未ゟ不

按ふ和漢書ふ氷海の産セーパールド一
海犢
ゼーカルフ
ウチと見ゟ有れ図説あゟのセイ